

♪音楽と私♪

♪音楽と私♪-2 「私の音楽足跡」ラルゴ室内合奏団（フルート）佐野義也（76歳）

私が音楽と出会ったのは、中学校にて、一年先輩がブラスバンド部を設立する時に、クラリネットでの参加を誘われたところから始まりました。もともとハモニカとかスペリオパイプ（リコーダー）などは、小学校音楽必修で楽しんでいましたが、本格的管楽器を手にしたのはクラブで在庫品だった半分壊れかけたクラリネットからでした。音が出にくく、つらい日々を過ごした記憶があります。後輩の吹いているフルートを冗談で操作するとなんと気楽に音が出るではありませんか。それからフルートを家では吹いていました。ブラスバンドではB♭（ベー）クラリネットから少し短く高音域を担当するE♭（エス）クラリネットへと続いていきましたが、自分でお金をためて購入した楽器は後輩から譲ってもらった当時5000円の中古フルートでした。



さてそれから自分勝手に練習して社会人になって初めてレッスンを受けるようになりました。そのころからの基本が、今ある自分勝手な音程、音痴さが作られたのだと思います（笑い）。それでも私の合奏への思いは強くなり、社会人から転身した住まいの調布にて自営業を始めてすぐに、管弦楽団を作ろう、という怖いもの知らずの行動に出てしまいました。34歳ごろのことでした。呼びかけた私のほか10人ほどで「調布フィルハーモニー管弦楽団」としてはじめました。その楽団はいま80名ほどになっているようです。

30周年記念演奏会のレセプションに呼ばれたのを最後に私は若い優れた後輩たちにすべてを任せて、引退しました。設立当初のメンバーはほぼいなくなった今、私は忘れられた存在となっているようです。当時の音楽活動を「アマオケえれじい/調布フィルハーモニー管弦楽団私記」という本で執筆し、全国の図書館に所蔵されて私の音楽足跡として残っているのが救われるところだと思っています。

寂しがっているところを拾ってくれたのが、今所属している「ラルゴ室内合奏団」。この合奏団は、きっと私の音楽人生の集大成をバックアップしてくれるのではないかとと思われるほど人生経験豊富な演奏家たちと、集団をまるで中学校の吹奏楽団の基本に戻して手直しをしてくれているような、メンバーたちからすれば、子供のような年齢の若手トレーナーで出来上がっているグループだと言えるでしょう。ほとんど私より年上の爺さんばあさんの音の交通整理をするだけでも大変なのに、基本の音程を楽曲練習の初めにかなりの時間をかけるカリキュラムを持っている指導者は、かつて出会った棒振りには見当たりませんでした。全シ連にあまた存在する楽団に負けず劣らずの合奏団だと自負自慢できるところです。独習というでたらめな音程から始めた私の音楽人生をこの「ラルゴ室内合奏団」は大団円を迎えるブラボーを私に叫んでくれるに違いありません。事実、ティアラ江東での第14回全シ連全国大会で、モーツァルトフルートカルテット、4人メンバーでやるのを、20人以上の団員達の弦楽器をバックに独奏できたことは感動以外何もありませんでした。数えるほどしかなくなっているわが余生を（笑い）何回ブラボーと叫べるか、この「ラルゴ室内合奏団」が最後の音楽足跡を残してくれると信じています。